

家族称呼からみた家族関係*

神戸大学教育学部

津 留 宏**

I 問 題

家族関係の心理学的研究は、特に日本の社会に於けるそれは、種々の事情により非常に困難である。近來行われる若干の方法においても、それがどこまで日本の家族関係の微妙で複雑な心理を明らかにしているか、かなり疑わしい。そこには無理な標式化か表現の主観性は避け難いように思われる。

ここにその調査が比較的、客観的になし得て、しかも日本の家族関係の心理的特殊性の一面を示唆し得まいかとの予想の下に、家族間相互の呼び方から家族関係を調べることを試みた。親族間相互の呼び名——親族称呼は従来、社会学の領域で、族的に強く接近していると感じている者に対して、これを他の者と区別して指示するために用いる称呼として、その親族の範囲を究めるために調べられたものであるが、私はこれを同一世帯の家族間だけに限って調べ、家族心理研究の手がかりにしようとするのである。

尤も家族相互がどう呼び合うかということだけからは、家族の心理的關係についてそう突込んだ説明はなし得ないようにも思われる。一般に人に対する呼び方には、それぞれ慣習により地域的、階級的、文化的な標準があるのであつて、この標準を知らない限り具体的な個々の呼び方から、その心理的關係を推察することはできない。例えば氏名の呼び捨てはある種の階級においては決して軽侮を意味しないばかりか却つて親愛を意味していることもあるのである。妻が夫の名を呼び捨てにすることすら、農村の一部では自然である。逆に丁寧な呼び方が相手への嫌悪を表わしていることもあるだろう。

こうした点は一応、充分、留意しなければならないが、一方、家族という集団はその構成において、またその意義や運営において広く似たような小集団であり、その生活的、全面的、長期間的な接触の故に、その呼び合

い方はそれなりにかかなりの心理的真實性を表わしていると思われる。その呼び合い方も従来、かなり一般的な標準があつた。現在、国語教科書やその他の教育的機会にみられる家族称呼の標準は大体、次の通りである。

父→子 (→印は父が子と呼ぶ場合を示す。以下同様)

名前の呼び捨て

母→子

名前にさん付け

兄→弟妹

名前の呼び捨て

姉→弟妹

名前にさん付け

弟妹→兄姉

兄さん、姉さん

孫→祖父母

おじいさん、おばあさん

そこでこの現在の標準を一応、規準とすれば、いろいろな地域や階級の具体的な家族称呼を通して、その家族関係や秩序の如何を教育心理学的に考察してみることができるだろう。この場合、称呼のよかれあしかれ標準からの逸脱は、言語生活全体の逸脱をも予想させる。

また案外、標準がはつきりしないのは夫婦間及び両親と祖父母間の称呼である。これらは封建家庭が整備していた頃は明確な称呼の標準があつたと思われるが、現在、家族制度や家族意識の変化につれて、この標準が崩れて全く過渡期的様相を呈しているからと思われる。これは恐らく他の家族関係においても言えることであろう。現在、家族間の權威や序列の意識は非常に緩和されつつある反面、個人意識は大いに高まつてきた。この過渡期的現象は具体的な家族称呼にどう反映しているのだろうか。いわゆる家族称呼の標準は事実上の標準になっているのだろうか。

これらの調査目的はかなり社会学的であるが、家族心理研究につながる興味ある資料を提供することと思われる。

* Family Relationships and the Way of Calling Each Other

** by Tsuru, Hiroshi

Ⅱ 方 法

調査地域は大阪府及び兵庫県下の住宅地、商業地、工業地及び農村を択んだ。別表のようにそうした地域性を代表していると思われる小学校に臨み、五年生の男女児童を通して、それぞれ自分の家庭において家族同士がどう呼び合っているかを面接によつて尋ねた。被面接者を五年生にしたのは、この年令の児童なら自分の家族の普段の呼び合い方を正確に知つて居り、かつこれを隠すほどの羞恥心もまだあるまいと考えたからである。

家族称呼は家族すべての凡ゆる組合せに及び、もし呼び方が二つ以上ある場合は、最も普通に多く用いられる方の呼び方を採つた。但しごく少数の重複はあつた。家族でない、即ち血縁或いは姻縁関係のない同居人はこれを除いたし、また義理関係の家族の場合も一応除外したがこれは正確な調査は困難であり、資料に少数ながら含まれたことは避けられなかつたと思われる。

() 内の調査校によつて代表させた各地域の特徴は次の通りである。

A 住宅地 (大阪府豊中市南桜塚小学校)

豊中市はもとは農村であつたが現在では大阪市の代表的な近郊住宅都市である。特にこの小学校の校区は中流のサラリーマン家庭が多い。勤先は多くは、大阪市内の会社、官庁、学校等である。その他未亡人家庭が比較的、多い。ほとんどがよそから移入した人々であるから、地区は自由な明るいややインテリの雰囲気以外にさしたる伝統はない。

B 商業地 (大阪市南区芦池小学校)

大阪市内最大の商店街心斎橋筋の近くにあり、その一部を校区に含む。表示のように父兄の職業は大部分、商業であるが、それとかなり大きなものが多い。老舗もあるが新店もあり、最近では隆替がはげしい。従つて大阪商人としての伝統の気風は、船場問屋筋辺りのように強くはない。家族間にはむしろ放任的な空気がある。

C 工業地 (兵庫県尼ヶ崎市鷺洲小学校、同立花小学校)

阪神工業地帯の代表的工業都市尼ヶ崎にあり、校区は大、中、小の工場が散在する間に小さな住宅が密集している。父兄の職業は大部分、工員である。(調査に当つて会社員と答えたものも実は工員が多いと思われる。工場へ行くことを会社へ行くと言つてゐる) 鷺洲の一部には商店街を含むが、立花は町はづれにあつて、一部に農地や住宅地を残している。

D 農村 (大阪府三島郡豊川小学校、兵庫県美方郡村岡小学校、同射添小学校)

大阪府の西北部は交通の便開けず、意外な程取残された農村地帯である。豊川村(校区)は低い山に囲まれた盆地でやや近郊的な農村である。村岡町及び射添村(共に校区)は兵庫県の西北隅、むしろ山陰文化圏に入る非常に交通不便な山村で、ただ村岡のみがその郡の中心地として旧くから若干の商業が営まれている。共にかなり古い伝統を残した農村である。

各調査校の家の職業及び家族数をみると (Table 1 及び 2) ほぼこれがその地区を代表していることが一層明確にわかる。地域別調査世帯数の割合は分類規準が異なるからむろん正確にはいれないが大体、我国の職業別就業者数の比 (第6回、日本統計年鑑、1954、による) に相応じている。全国的な都市、郡部別人口比にも実質的に

Table 1 地域別職業

職 業	住	商	工		農		全 体
	南桜塚	芦池	鷺洲	立花	村岡	射添	
農 業	3	0	0	9	24	32	68
商 業	12	68	25	5	13	4	127
工 業	3	7	23	49	0	0	82
会社員	42	10	15	38	1	2	108
公務員	19	1	2	8	7	4	41
職 人	5	5	7	4	1	1	23
その他	4	0	0	1	1	1	7
無 職	6	2	0	3	5	2	18
不 明	5	0	16	4	1	0	26
計	99	93	88	121	53	46	500

(豊川校の分を含まず)

Table 2 地域別家族数

家族数	住	商	工		農		全 体
	南桜塚	芦池	鷺洲	立花	村岡	射添	
2人	1	4	1	1	1	0	8
3	3	4	4	3	2	0	16
4	15	16	17	17	4	4	73
5	42	27	27	31	10	6	143
6	16	18	17	36	15	14	116
7	10	11	15	13	8	10	67
8	5	9	3	18	7	7	49
9	7	2	4	3	4	2	22
10	0	1	0	0	1	3	5
重世代 世帯数	17	12	16	24	20	12	101
平 均 家族数	5.56	5.48	5.50	5.50	6.19	6.60	5.84

(豊川校の分を含まず)

はほぼ合っていると思う。

調査は昭和28年11月に第1回、昭和30年8月に第2回を行った。

III 結 果

家族称呼は具体的にはいろいろあるが、凡そ次の五つの範疇に分類し得る。

A 普通名詞

お父さん、兄さん、おばあちゃん、の如き。

B 固有名詞

正雄、節子ちゃん、時坊の如く本人の名前の全部或いは一部を含むもの。

C 代名詞

おまえ、あなた、君など。

D 呼びかけ

おい、ちよつとの如き。

E 不 明

明確な一定の呼び方のないもの。

この分類の下に一応、凡ゆる具体的な呼び方を全部記録し、その出現頻数を出した。ここではそれを若干、整理したものを表示する。頻数のごく少いものはそれ自体特殊な場合を予想するが、できるだけそのまま挙げるようにする。但し明瞭な方言は一括した。調査は、その対象のないものは当然、除いたし、また家族相互の凡ての組合せにおいて調べたから（例えば子の母に対する呼び方は母のない子は除いたし、また被調査者のみならず家族中のすべての子の母への呼び方を調べた）ここでの頻数は調査世帯数より少いものも一部にあるが、多くの場合、それより著しく多くなっている。この扱い方には若干、問題があるが、ここでは調査世帯を通しすべての家族（但し発語不明確な乳幼児が他を呼ぶ場合は除く）が相互にどう呼び合っているかを調べることにしたのである。従つて各頻数は調査世帯数にこだわることなく、その関係毎の調査例数（表中「計」）における割合を示すものとして理解される。事実、同一世帯の子供においても、例えば父母への呼び方の異なる場合があるのである。

以下、次の家族間の称呼を、始め全体的に次いで地域別比較において眺めてゆく。

夫→妻 (Table 3) 妻→夫 (Table 4) 子→父 (Table 5) 子→母 (Table 6) 父母→祖父 (Table 7) 父母→祖母 (Table 8) 祖父母→父 (Table 9) 祖父母→母 (Table 10) 兄姉→弟 (Table 11) 兄姉→妹 (Table 12) 弟妹→兄 (Table 13) 弟妹→姉 (Table 14)

表中「名前」とあるのは名前の呼び捨てであり、「略名」とあるのは名前の半分または一部を省略して呼び捨て

てにする場合である。（例えば「安江」を「安」と呼ぶ如き）「名前或は略名さん」とか「ちゃん」とかは、名前或は略名にさんとかちゃんとかを付けて呼ぶ場合である

1 夫→妻

夫→妻は「名前の呼び捨て」が半数近くで最も多く、次いで「お母ちゃん」「お母さん」と子供本位の呼び方である。尤も子供は母を「お母ちゃん」と呼んでいる家庭でも夫は妻を「お母さん」と呼んでいる場合がかなりあり、必ずしも子供が呼ぶ通りではない。

Table 3 夫 → 妻

呼 び 方		全体	地 域 別			
			住	商	工	農
普通名詞	お母ちゃん	94	15	18	41	20
	お母さん	63	24	9	19	12
	おかあ	4				4
	かあちゃん	1			1	
	かあさん	1	1			
	マ マ	1	1			
	その他	5			1	4
固有名詞	名 前	245	35	35	53	122
	名前ちゃん	2	1	1		
	略名ちゃん	2			2	
	略 名	1			1	
代名詞	おまえ	22	4		16	2
	あんた	3		1		2
	あなた	1	1			
	君	1			1	
呼びかけ	お い	60	8	11	30	11
	ちよつと	11		7	4	2
不 明		33	2	4	24	3
計		548	92	86	191	179

問題の「おい」は一割程でそう多くはないし、反対に進歩的な家庭に多いといわれる名前にさんやちゃん^{*}を付けるのや君^{**}と呼ぶのなどは殆どない。

農村では名前の呼び捨てが尙、普通であるが都会、特に住宅地ではやや民主的な傾向がみられる。

妻→夫では「お父さん」「お父ちゃん」が七割余りを占めている。この場合も子供は父を「お父ちゃん」と呼んでいるのに、妻は夫を「お父さん」と呼んでいるのが多いのである。「あんた」とか「あなた」とかの一般的な代名詞が一割以上もあり、「おい」に対するものとし

Table 4 妻→夫

呼 び 方		全体	地 域 別			
			住	商	工	農
普通 名 詞	お父さん	242	57	36	56	93
	お父ちゃん	154	16	28	81	29
	とうちゃん	4	1	2	1	
	おとつちあん	3				3
	パ パ	2	1	1		
	とうさん	2	2			
	その他	5	1			4
固有 名 詞	名 前	10	1	1	3	5
	略名さん	3				3
	名前さん	1				1
代 名 詞	あんた	52	4	2	20	26
	あなた	13	7	1	3	2
	大 将	1		1		
呼か び け	ちよつと	23	1	11	9	2
	お い	1				1
不 明		30	2	3	20	4
計		546	93	86	193	174

て「ちよつと」もかなり広く用いられている。一般に夫婦間の呼び方は夫→妻に名前の呼び捨てが多いほかは、一定の呼び方がなく——或は過去にあつたものが崩れて「おまえ」「あんた」のような一般的な代名詞や、「おい」「ちよつと」のような漠然たる呼びかけや或は子供が父母を呼ぶ呼び方を借りて相互に呼んでいるのが大きな特色である。「不明」の数が多いのもこれを更に示していよう。代名詞、呼びかけ、不明のような漠然とした呼び方を総計すると、夫→妻では131で2割4分、妻→夫では120で2割2分を占める。これは日本の夫婦関係の人格的關係としての曖昧さか両者の融合(?)した関係かを示すものであろう。或いは夫からのみの一方的関係を示しているのかもしれない。工業地に特にこうした傾向が見られるのはここでは旧い関係が崩れ放しだからであろう。住宅地では両者の関係はもつと近代的に確立しかけて、漠然たる呼び方は少くなっている。何れにしても子供本位の呼び方の多い点からみても、日本の夫婦関係が夫婦としてよりも子供の父母としての関係の方が尙大きいことを一般的に思わせる。

2 父母⇄子

子→父は九割強が「お父ちゃん」か「お父さん」で、他の呼び方は稀少である。「お父ちゃん」が「お父さん」の二倍ほど多い。工業地では他に比

しやや「お父さん」と呼ぶ傾向が大きい。商工業地では圧倒的に「お父ちゃん」である。「おとつちあん」は工業地に多いかと思つたら一例もなく、一部農村に局限されていた。これに対し「とうちゃん」は少いが範囲は広い。

子→母も九割までが「お母ちゃん」か「お母さん」で殊に「お母ちゃん」が「お母さん」の四倍以上も多い。

Table 5 子→父

呼 び 方		全体	地 域 別			
			住	商	工	農
普通 名 詞	お父ちゃん	1050	79	212	553	206
	お父さん	428	65	57	115	191
	おとつちあん	38				38
	とうちゃん	18	2	10	1	5
	おとつちあん	7				7
	パ パ	4	1	3		
	方 言	12			1	11
	その他	7			1	3
	不 明	4			4	
固有 名 詞	名 前	1				1
	名前さん	1				1
代 名 詞	たいしよ	1				1
	不 明	4			4	
計		1573	150	282	675	466

Table 6 子→母

呼 び 方		全体	地 域 別			
			住	商	工	農
普通 名 詞	お母ちゃん	1307	84	252	648	323
	お母さん	301	50	42	79	130
	方 言	18				18
	かあちゃん	17	4	2	4	7
	おかあ	10				10
	あーちゃん	5			3	2
	マーちゃん	3		3		
	おかあちやま	3			3	
	その他	9	4	1	1	3
固有 代 名 詞	名 前	4				4
	あんた	1				1
呼か び け	ちよつと	1			1	
	不 明	5		2	1	2
計		1684	142	302	740	500

父を「お父さん」と呼びながら母を「お母ちゃん」と呼ぶケースがかなり多いのである。ここでも「お父さん」「お母さん」という標準語は現実にはその勢力を失いつつあることがわかる。現実の家庭の大多数は「お父ちゃん」「お母ちゃん」というこの幼児期的な呼び名をそのまま流しているのである。「さん」と「ちゃん」とのニュアンスの違いを認めるなら、両親に対し一層、人間的親しみを増し、殊に母親へは父親以上に幼い親しみが濃いと言えよう。「あちちゃん」「マーちゃん」というような幼児語が母親へはそのまま残り、また農村で方言の残る割合が父より母に対して多いのもこれを示唆している。

住宅地では両親共に「お父さん」「お母さん」と標準語で呼ばせる傾向が他に比してやや高いようだが、それでもやはり共に「ちゃん」の方が多い。「パパ」「ママ」は一時、進歩的な人からはもう一般化したと言われたが、そんな様子は全く見られない。「さま」付けも殆どない。これは調査世帯が最も庶民的で、上流階級をほとんど含まなかつたからかもしれない。しかし後のきょうだい間にもみられるように、日本人の親しい家族間での好きな呼び方はどうも「ちゃん」であるらしい。

尚、「その他」の中には現在親子でも特殊な関係らしいことを反映した呼び名があつた。一般に不当な称呼の乱れは農村に多い。

父母→子の場合には比較的単純なので表示は略すが、父→子では八割余が名前の呼び捨てであるが、母→子ではこれが七割弱になり、他に名前か略名に「ちゃん」付けが増す。住宅地や商業地では農村に比し父母共にこの「ちゃん」付けが多くなる。他に略名や愛称或いはきょうだい同志の呼び方を父母もそのまま使っている場合が商工地では若干見られる。要するに日本の両親はまださこぶる几帳面に或いは厳しく、子供を名前の呼び捨てで呼んでいるのが大勢である。

3 父母⇄祖父母

父母→祖父母の場合もやはり子供本位に「おじいさん」「おじいちゃん」「おばあさん」「おばあちゃん」が多い。しかしここでは「ちゃん」よりも「さん」の方が多いのは親しみより敬意の勝つためか或いは既に子供の生れる以前にできた成人同士の呼び名だからであろう。尤もこの四者相互の称呼には微妙な違いもある。

まず父は実父母である祖父母を「お父さん」「お母さん」と自然に呼んでいるが、母は祖母を「お母さん」と呼ぶ割には祖父を「お父さん」と呼ぶことは非常に少い。そして祖母に対する呼び方の方が両親共種類が多い。祖父の地位は祖父として固定しているが、祖母の地位はさ

Table 7 父母→祖父

呼 び 方		全体	地 域 別			
			住	商	工	農
普通 名 詞	おじいさん	30(37)	6 (9)	(1)	5 (5)	19(22)
	おじいちゃん	10 (9)	2 (1)	2 (1)	2 (4)	4 (3)
	お父さん	11 (5)	3	1 (1)	4 (2)	3 (2)
	おやじ	2		1	1	
	お父ちゃん	(1)			(1)	
	おじさん	(2)				(2)
	方 言	(1)				(1)
固有 呼か びけ	名 前	3				3
	ちよつと	(1)			(1)	
不 明		2 (2)		(1)	(1)	2
計		58(58)	11(10)	4 (4)	12(14)	31(30)

() は母→祖父

Table 8 父母→祖母

呼 び 方		全体	地 域 別			
			住	商	工	農
普通 名 詞	おばあさん	52(57)	10(11)	4 (3)	9 (7)	29(36)
	おばあちゃん	36(44)	6 (7)	4 (4)	12(16)	14(17)
	お母さん	11(22)	5 (4)	(3)	2 (7)	4 (8)
	お母ちゃん	1 (3)			(3)	1
	おばちゃん	2 (1)				2 (1)
	ばあちゃん	1 (1)			1 (1)	
	おばあ	1			1	
	おばあさま	(1)				(1)
	ばあさん	1		1		
	かあさん	1		1		
固有 呼か びけ	名 前	5			1	4
	ちよつと	2			2	
呼か びけ	お い	3			1	2
不 明		6 (2)			4 (2)	2
計		122 (131)	21 (22)	10 (10)	33 (36)	58 (63)

() は母→祖母

まざまのように見える。祖父母に対する称呼の乱れは工業地で特に著しい。農村では「おじいさん」「おばあさん」が最も普通である。

祖父母→父母の場合には名前の呼び捨てが多くこれは特に母に対しては決定的である。祖父、祖母共、父に対しては母に対するより「お父さん」「お父ちゃん」と呼ぶことが多い。しかし祖母は祖父より父母を子供本位の呼

Table 9 祖父母→父

呼　　び　　方		全体	地　　域　　別			
			住	商	工	農
普 通 名 詞	お父さん	10(34)	2 (5)	(3)	2 (6)	6(20)
	お父ちゃん	4(14)	3 (5)	(1)	1 (6)	(2)
	おとつつあん	1 (2)	1			(2)
	にいさん	1 (2)				1 (2)
	たいしよ	(1)		(1)		
	お父ちやま	(1)			(1)	
固 有 名 詞	名　　前	35(53)	5 (9)	1 (3)	6(13)	23(28)
	名前さん	(3)	(1)		(1)	(1)
代 名 詞	あんた	(2)			(1)	(1)
	お　　前	1			1	
呼 か び け	ちよつと	(3)		(1)	(2)	
	お　　い	2		1	1	
不　　　　明		4 (7)	1 (2)	2 (1)	1 (2)	(2)
計		58 (122)	12 (22)	4 (10)	12 (32)	30 (58)

() は祖母→父

Table 10 祖父母→母

呼　　び　　方		全体	地　　域　　別			
			住	商	工	農
普通 名 詞	お母さん	3(19)	1 (5)	(1)	(6)	2 (7)
	お母ちゃん	3(13)	2 (3)		1 (6)	(4)
	ねえさん	(4)	(1)		(2)	(1)
	お母ちやま	(1)			(1)	
	かあちゃん	(1)			(1)	
固 有 名 詞	名　前	47(83)	6(13)	1 (4)	12(20)	28(46)
	名前さん	1 (2)	1	(2)		
	名前ちゃん	1 (2)	(1)	1 (1)		
代 名 詞	あんた	1	1			
	お　前	(1)			(1)	
呼 か び け	ちよつと	1 (2)		1 (1)	(1)	
	お　い	1				1
不　　明		1 (3)		1	(2)	(1)
計		59 (131)	11 (23)	4 (9)	13 (40)	31 (59)

() は祖母→母

び名で呼ぼうとする傾向がある。それは祖母が祖父より一層、子供に親しい関係にあるからだろう。祖母が母を名前に「さん」付けて呼ぶ場合は案外少い。要するに祖父母が父母を名前の呼び捨てで呼んでいる風は未だ最も

強いし、それが次第に子供本位の「お父さん」「お母さん」へ転化しようとしているが、まだ名前を「さん」付けて呼ぶまでには殆んど至っていないとみるべきだろう。その間に多少、曖昧な呼び方も増している。

尚、ついでながら祖父母が孫を呼ぶ呼び方は、父母が子を呼ぶ呼び方にそれぞれほぼ等しい。(表略)

4 兄姉⇄弟妹

兄→弟妹では七割前後が名前の呼び捨てである。これは農村には特に多い。その点兄は父母が子を呼ぶ場合に似ている。しかし住宅地と商業地では、名前或いは略名に「ちゃん」付けが多くなる。略名に何かを付ける呼び方はいろいろあるが、とに角兄は弟妹をその固有名詞で呼ぶのが普通で、他の呼び方は異例に属する。兄は弟より妹の方にやや「ちゃん」付けが多いようである。

ところが弟妹→兄では逆に普通名詞が6割前後を占め、名前を呼ぶことは少い。即ち「兄ちゃん」が最も多く、次いで「お兄ちゃん」である。「お兄ちゃん」は農村では著しく少く、やや都会的な呼び方にみえる。ここでも標準語の「兄さん」或いは「お兄さん」は住宅地を除き意外な程少い。

兄をきょうだいの序列を示す共通の普通名詞で呼ぶ関係上、二人以上の兄のある場合は年令によつて大きい、小さいという更に序列を示す形容詞を上につけて区別し

Table 11 兄姉→弟

呼　　び　　方		全体	地　　域　　別			
			住	商	工	農
普通 名詞	にいちゃん	2 (3)	1		1 (3)	
	小さいにい ちゃん	1 (2)	1		(1)	(1)
固 有 名 詞	名　　前	640 (300)	98	54 (30)	207 (163)	281 (107)
	略名ちゃん	125 (85)	33	44 (37)	24 (36)	24 (12)
	名前ちゃん	85(75)	3	25(17)	33(42)	24(16)
	略名坊	22(19)	11	5 (3)	4(12)	2 (4)
	略名公	5		2		3
	略名兄ちゃん	1 (1)			(1)	1
代 名 詞	愛　　称	11(10)	3	2 (1)	(8)	6 (1)
	あだな	1 (1)		(1)	1	
	ぼ　　く	1 (8)			(5)	1 (3)
呼か びけ	ちよつと					1
不　　明		1 (1)		(1)	1	
計		896 (505)	150	132 (90)	271 (271)	343 (144)

() は姉→弟

(住及び農の一部は姉→弟の資料欠く)

Table 12 兄姉→妹

呼 び 方		全体	地 域 別			
			住	商	工	農
普通 名詞	小さいねえち やん	1			1	
	ねえちやん	(1)	(1)			
固 有 名 詞	名 前	367 (444)	(56)	54(24)	209 (157)	96 (196)
	略名ちやん	121 (220)	(54)	51(63)	54 (76)	16 (81)
	名前ちやん	56 (128)	(25)	17 (6)	28 (26)	10 (71)
	略名坊	2 (4)		1	1	(4)
	名前姉ちやん	(1)				(1)
	その他	9(12)		2 (1)	2 (3)	5 (8)
代 名 詞	愛 称	3 (4)	(1)	3 (1)	(1)	(1)
	あだな	4 (1)		2	2 (1)	
呼か びけ	ちよつと	(1)		(1)		
	不 明	3 (1)		1	1 (1)	1
計		557 (805)	(137)	131 (96)	298 (265)	128 (362)

() は姉→妹

(住及び農の一部は兄→妹の資料欠く)

て呼ぶことはかなり一般的である。これは実際には呼びにくくて、そのため発語が変化して妙な呼び名(例えば「ちつちやにちやん」の如き)になつてしまつても尙、守られている。兄の上に名前を付けて区別する自然なやり方よりもこの方が今尙、多いということは考えさせられる。

尤も弟妹が兄の名前を呼ぶことは商業地では非常に多く、兄をつけて呼ぶ場合と半々くらいである。これは自由な進歩的な呼び方とも思うが住宅地では案外多くない。兄に対し名前の呼び捨てをするのは商業地を除きかなりある。農村では妻が夫の名を呼び捨てて呼ぶのがあつたように、これらはある階級では普通のことなのである。一般に略名や「ちやん」付けがきようだい間では一層、多い。これは子供同士の親密な関係を表わしている。

姉→弟妹の場合は兄の場合といささか趣を異にする。全体としてはやはり名前の呼び捨てが最も多いが、名前に「ちやん」付けもかなり多く、住宅地、商業地では却つて後者の方が多い。それに略名や愛称も多く、やはり姉の方が弟妹をやさしい呼び方で呼んでいるようである。それは妹に対し一層、そのように見受けられる。

弟妹→姉では「姉ちやん」或は「お姉ちやん」が頗る多く、標準語の「姉さん」「お姉さん」は非常に少い。こ

Table 13 弟妹→兄

呼 び 方		全体	地 域 別			
			住	商	工	農
普 通 名 詞	兄ちやん	296 (215)	41	32(45)	123 (120)	100 (50)
	お兄ちやん	94(58)	17	14 (6)	56(47)	7 (5)
	大きい(小さい) 兄ちやん	72(20)	14	12 (4)	6(11)	40 (5)
	兄さん	37(13)	5		11 (7)	21 (6)
	お兄さん	30(11)	23		7(11)	
	方 言 その他	30(22) 4 (6)				30(22) 4 (6)
固 有 名 詞	略名ちやん	101 (69)	13	37(25)	11(20)	40(24)
	名 前	66(31)	11	2 (3)	11(18)	42(10)
	名前ちやん	40(48)	4	13(36)	10 (9)	13 (3)
	名前兄ちやん	45(17)	5	2 (1)	24(15)	14 (1)
	略 名	7 (3)			1	6 (3)
	略名兄ちやん	5 (2)	1	2 (1)	1 (1)	1
代 名 詞	その他	5 (7)		4	1 (3)	(4)
	あだな	2 (2)		1 (1)	1 (1)	
	愛 称	1 (1)		(1)	1	
呼か びけ	あんた	(1)				(1)
	ちよつと	(1)		(1)		
不 明		6	1		1	4
計		831 (527)	135	119 (124)	265 (263)	322 (140)

() は妹→兄

(住及び農の一部は妹→兄の資料欠く)

こでもやはり大小を付け二人以上の姉を区別しているが、姉の上に名前を付けて区別する方が兄の場合よりさすがに多い。妹→姉の場合は殊に然りである。一般に名前を呼ぶことは兄に対する場合よりやや多くなつてゐる。しかし商業地ではこの方が多いが住宅地では案外そうでもない傾向は、兄の場合と同様である。妹は兄を兄の称呼を用いて呼ぶよりは、姉を一層、姉の称呼を用いて呼んでいる。兄よりも姉の方にきようだいな親しみが濃いのだろうか。弟にはそんな差違はみられない。一般にきようだい間の呼び名は非常にさまざまで、ここでも過渡期的混乱を感じさせる。兄姉→弟妹は、呼び捨てから「名前ちやん」へ、更に「略名ちやん」へ、弟妹→兄姉は「兄さん」「姉さん」から「兄ちやん」「姉ちやん」へ、そして更に「略名ちやん」へと進むことによつて、きようだい間は全く対等の関係になろうとしているのではあるまいか。またきようだい間の称呼には、家庭の教育的配慮の如何がよく出ているように思われる。

Table 14 弟妹→姉

呼　　び　　方		全体	地　　域　　別			
			住	商	工	農
普通 名 詞	姉ちゃん	270 (349)	29(40)	26(26)	115 (118)	100 (165)
	お姉ちゃん	69(85)	17(25)	4 (5)	46(53)	2 (2)
	(大・中・小) 姉ちゃん	28(25)	5 (6)	1 (2)	9	13(17)
	姉さん	25(13)	2 (2)		14 (4)	9 (7)
	お姉さん	7 (6)	2 (6)		5	
	方　　言	8 (3)				8 (3)
	その他	2 (4)		1 (3)	1 (1)	
個 有 名 詞	略名ちゃん	89 (128)	5(15)	10 (3)	24(10)	18(22)
	名　　前	59(40)	7 (5)	10 (3)	24(10)	18(22)
	名前姉ちゃん	31 (103)	3(15)	8(11)	10(36)	10(41)
	名前ちゃん	20(40)	1 (8)	7 (8)	5 (6)	7(18)
	略名姉ちゃん	2 (5)		(2)	1 (1)	1 (2)
	その他	2 (4)		1 (3)	1 (1)	
代 名 詞	愛　　称	5 (8)	(4)	1	1 (2)	3 (2)
	あだな	3 (2)			2 (2)	1
不　　　明		3 (5)	(2)	1		2 (3)
計		633 (829)	71 (128)	82(94)	265 (250)	214 (357)

() は妹→姉

IV 要 約

小学校五年生を通してみた 603 世帯、約3500名の家族相互の称呼において、比較的多数を占めた呼び方は次の通りである。

夫→妻

1. 名前の呼び捨て(45%)
2. 「お母ちゃん」「お母さん」(合せて29%)

妻→夫

1. 「お父さん」「お父ちゃん」(合せて73%)

子→父

1. 「お父ちゃん」(67%)
2. 「お父さん」(27%)

子→母

1. 「お母ちゃん」(78%)
2. 「お母さん」(18%)

父→子

1. 名前の呼び捨て(83%)
2. 名前または略名に「ちゃん」付け(13%)

母→子

1. 名前の呼び捨て(67%)
2. 名前または略名に「ちゃん」付け(27%)

父→祖父

「おじいさん」「おじいちゃん」(合せて70%)

母→祖父

「おじいさん」「おじいちゃん」(合せて80%)

父→祖母

「おばあさん」「おばあちゃん」(合せて70%)

母→祖母

「おばあさん」「おばあちゃん」(合せて80%)

祖父→父

1. 名前の呼び捨て(60%)
2. 「お父さん」「お父ちゃん」(合せて25%)

祖母→父

1. 名前の呼び捨て(44%)
2. 「お父さん」「お父ちゃん」(合せて40%)

祖父→母

1. 名前の呼び捨て(80%)
2. 「お母さん」「お母ちゃん」(合せて24%)

祖母→母

1. 名前の呼び捨て(63%)
2. 「お母さん」「お母ちゃん」(合せて10%)

兄→弟

1. 名前の呼び捨て(71%)
2. 名前または略名に「ちゃん」付け(23%)

姉→弟

1. 名前の呼び捨て(60%)
2. 名前または略名に「ちゃん」付け(32%)

兄→妹

1. 名前の呼び捨て(66%)
2. 名前または略名に「ちゃん」付け(32%)

姉→妹

1. 名前の呼び捨て(55%)
2. 名前または略名に「ちゃん」付け(43%)

弟→兄

1. 「兄ちゃん」「お兄ちゃん」またはこれの付くもの(合せて62%)
2. 名前または略名に「ちゃん」付け(17%)

妹→兄

1. 「兄ちゃん」「お兄ちゃん」またはこれの付くもの(合せて59%)
2. 名前または略名に「ちゃん」付け(22%)

弟→姉

1. 「姉ちゃん」「お姉ちゃん」またはこれの付くもの(合せて63%)
2. 名前または略名に「ちゃん」付け(17%)

妹→姉

1. 「姉ちゃん」「お姉ちゃん」またはこれの付くもの(合せて68%) 2. 名前または略名に「ちゃん」付け(20%)

尙、調査結果全般を通し次のような傾向が看取される。

- 1 夫婦間の称呼は一般に甚だ不明確であり、特に妻→夫の場合は曖昧である。多くは子が父を呼ぶ呼び方を借りている。
- 2 一般標準語とされる子→父母の「お父さん」「お母さん」、弟妹→兄姉の「兄さん」「姉さん」は意外に少い。一般に家族間は「さん」よりは「ちゃん」付けが多い。但し「おじいさん」「おばあさん」はこの限りでない。
- 3 夫婦間及び子、祖母の父に対する称呼よりみて、尙母よりは父に対して敬意が強い。
- 4 きょうだい間の呼び方は、よく家庭の教育的配慮の如何を反映している。
- 5 農村には全く不当な称呼がかなりみられる。住宅地にはこれがない。一般に敬称の点では農村、工業地がより乱れている。
- 6 家族称呼は一般に子供本位の呼び方になろうとす

る。日本の家庭の子供本位的性格を表わしている。

- 7 家族称呼にも明らかに過渡期的様相がみられる。即ち従来の標準的な家族称呼が崩れて新しい称呼が生じつつある。旧い称呼の権威的、序列的、形式的なものが、より平等的、人間的、親愛的な呼び方にとつて代われようとしている。恐らくこれは家族制度の変化と共に、封建的家族意識の減退、個人意識の昂揚等によるものであろう。
- 8 尤も農村と住宅地の一部では標準的な称呼に尙、関心が強いように見える。これは次のように解せられる。即ち日本の家族称呼の標準語はやや保守的なものであるが、農村はその家族制度の保守性からこれを残し、住宅地の知識階級では保守的というのではなくむしろ教育的配慮から標準語に依ろうとしているのであろう。従つて両方の性格を欠く商工地では最も称呼の乱れがみられるのである。

以上、家族称呼は日本の現下の家族関係の特徴のいくつかを示唆したが、こうした大きな問題については、これはやはり補助資料的にとどまるものと思われる。

—1956年4月21日受稿—